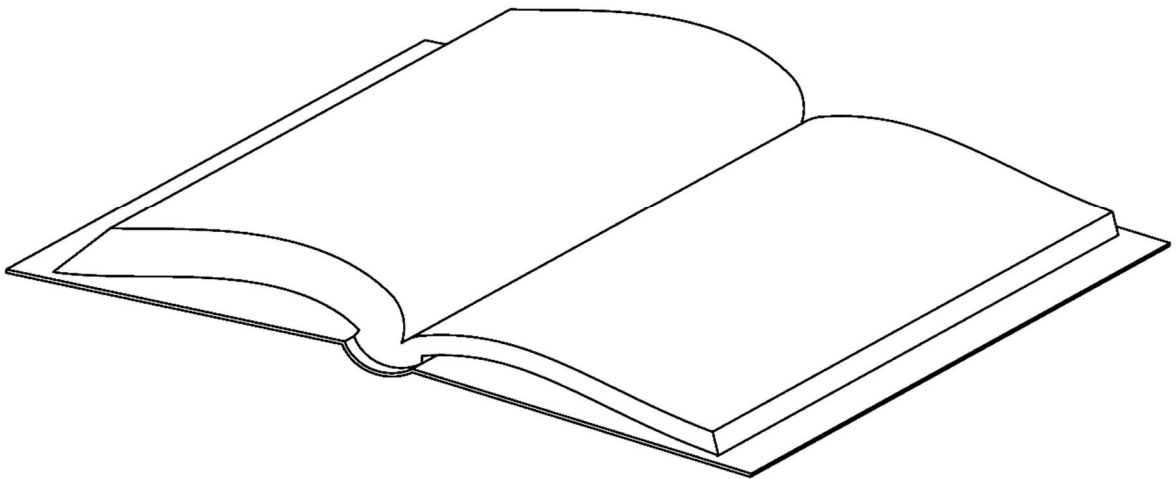


# *HIRODAI Book Rarities*



## はじめに

図書館で本を探していると、時折「なんだこれは？」というような本が目につくことはありませんか？

この冊子はそんな「なんだこれは？」と思った本を紹介したものです。「おすすめ本」の紹介を書く機会があり色々書いてみましたが、「正直万人におすすめするモノではないな」と思った書籍を独断と偏見でレベル別にまとめてみました。興味を持ったものがあれば、読んでみて下さい。

ちなみに、全て一回は読んだうえで書いています。逆にまだ読んでいないものでも興味が引かれる作品もありますが、この中には入れていません。「ここが変!」「色々おかしい」という書籍があれば是非教えてください。

## 目次

・ Lv.1(20 冊)	……………	p.3
・ Lv.2(22 冊)	……………	p.9
・ Lv.3(20 冊)	……………	p.15
・ Lv.4(9 冊)	……………	p.21
・ Lv.5(10 冊)	……………	p.24
・ "レア"な本の探し方	……………	p.28

# Lv.1 ★

ちょっと変わっているけど普通の作品。

### 「恋愛小説ふいんき語り」(麻野一哉,飯田和敏,米光一成)

中央図書館 2階 910.26/A-87

一線のゲームクリエイターたちが現代の恋愛小説の名作たちを誤解を恐れず"なんとなく"語って見る。各項の最後に"その小説をもとにゲームを作るとしたら"というゲームクリエイターならではのまとめがあり興味深い。

### 「1964年の東京オリンピック」

中央図書館 2階 780.69/I-75

三島由紀夫の開会式の観戦記から星新一の短篇「オリンピック二〇六四」まで、当時の作家・評論家たちが、観戦記あり、評論あり、創作あり、と様々な角度から東京オリンピックを論じたものをまとめた内容。当時の熱狂ぶりが伺える。

### 「ファッションフード、あります。」(畑中三応子)

中央図書館 2階 383.81/H-42

牛めし、ティラミス、B級グルメなど日本で一時的に大流行した食べ物を"ファッションフード"ととらえ、それらを時代の様相と共に女性誌編集者が解説している。私はナタデココが好きだが、最近は他の物に押されて年々見つけにくくなっているような気がするので少々悲しい。

### 「FORTRAN IV 入門」(森口繁一)

中央図書館書庫

その名の通り「FORTRAN」というプログラミング言語の教科書。実は図書館にはこの本が10冊位入っているが、なぜかNDCがそれぞれ「007.64」「418.6」「535.54」で登録されており違う場所に配架されている。全て中央図書館の書庫にあるのでNDCの意味を考えながら探してみよう。

### 「ライトノベルから見た少女/少年小説史」(大橋崇行)

西図書館 2階・開架 910.26/O-28

ライトノベルの起源ってなに?、ハルヒ?、ブギーポップ?、スレイヤーズ?、妖精作戦?、なんて素敵にジャパネスク?、超革命的中学生集団?、時をかける少女?、いやいやもっと遡れるんじゃない?ということで戦前の少年小説、少女小説まで遡ってそこに源流を探し求める評論。このレベルになると(著作権が失効して)青空文庫や国会図書館デジタルコレクションで閲覧できるものもあるので、読んでみると面白いかも。

## 「図書館情調」

中央図書館 2 階 913.68/H-54

「図書館」で読むならやはり図書館をテーマにしたまさに図書館の"情調"が感じられるこのアンソロジー。「文字禍」(中島敦)、「図書館」(三崎亜記)、「S 倉極楽図書館」(笙野頼子)がおすすめ。長篇では「図書館戦争」や「図書館の魔女」は有名だが他にもあるだろうか？

## 「妊娠小説」(斎藤美奈子)

中央図書館 2 階 910.26/Sa-25

日本の近代からの有名作品を「望まれない妊娠」という観点でまとめた、語り口が軽妙で、そして結構皮肉が辛辣でちょっと笑える評論。文中では村上春樹までしか取り上げられてないが、個人的には「望まれない妊娠」と言えば「ケータイ小説」なので現代の小説の分析が待たれる。

## 「そして僕は OED を読んだ」(アモン・シェイ)

中央図書館 2 階 833.1/Sh-14

1 年かけて OED(オックスフォード英語辞典)を読破した辞書マニアのエッセイ。文中にもマイナーな単語が多く出てくるが、辞書一冊を全て読んだら「Fictionary」というゲーム(日本では「たほいや」という名で知られている)に余裕で勝てそう。この紹介中でもいくつか辞書を紹介しているので是非。

## 「卒業式の歴史学」(有本真紀)

中央図書館 2 階 374.4/A-73

何故「卒業式」＝「悲しい」というイメージになったのか、明治以降の学校制度の変遷などをもとにその謎を解き明かす。「ああ 卒業式で泣かないと 冷たい人と言われそう」というのは斉藤由貴の「卒業」の歌詞だが、「卒業式は泣くほどでもないな」と思っていた方に、懐メロが好きな方にも。

## 「C 言語による有限要素法入門」(森博嗣)

西図書館 3 階・開架 501.34/Mo-45

内容は題名通りの普通の技術書だが注目すべきはこの本の著者。なんと小説家デビュー前に名古屋大学で教鞭をとっていた森博嗣が書いている。正直 1989 年の出版で情報は少々古いが熱心な森博嗣ファンはどうぞ。黒川善幸という方との共著ではあるが「C 言語によるマトリックス演算」という書籍もある(中央図書館所蔵)。

## 「戦争×文学シリーズ」

西図書館 2階・開架 918.6/Ko-79/\*\*

日本における戦争と文学の関りについて、テーマ別に 20 巻(+別冊)にまとめた圧巻のアンソロジー。私は SF 者なので第 5 巻「イマジネーションの戦争」がおすすめ。中でも「鼓笛隊の襲来」(三崎亜記)、「おれはミサイル」(秋山瑞人)、「リトルガールふたたび」(山本弘)は一読の価値あり。余裕があれば他の作品や巻も。

## 「法医昆虫学捜査官」(川瀬七緒)

西図書館 2階・開架 913.6/Ka-97

ミステリで用いられる捜査手法として、またそのサブジャンルとしてもすっかり周知された感のある「法医学」。このシリーズはその中でも「法医昆虫学」、つまり端的に言えば死体に着く虫などを研究する学者が主人公のミステリである。ホラーとはまた違った意味で「グロイ」内容。ただ話はすごく面白いので虫に忌避感のない方は是非。

## 「ニッポン大音頭時代」(大石始)

中央図書館 2階 767.8/O-33

伝統としての「音頭」～「東京音頭」(1933)～現代のクラブ・ハウスとの係わりまで「音頭」という面から見た日本の流行音楽史。要は「音頭」＝「ダンスミュージック」。単なる懐メロの一ジャンルではなく、とてもバラエティ豊かで現代にも通用するものであるということがわかる一冊。盆踊りに行って、そのリズムに身を任せてみよう！

## 「性転換」(古川智映子)

西図書館 2階・開架 913.6/F-93

NHK の連続 TV 小説「あさが来た」の原作者による、MtF(男性→女性)と FtM(女性→男性)の 2 人の若者を中心に性別適合手術が行われるまでを書いた、小説というよりはノンフィクションに近い作品。出版当時はどれだけこの本が話題になったか分からないが、ムーブメントが起きている今、全くこの作品のことを聞かないので少々惜しい気がする。

## 「『罪と罰』を読まない」

西図書館 2階・開架 983/Ts-72

一応あらすじ位は知っているが難解で気軽には読めないという評判で有名なドストエフスキーの「罪と罰」を、岸本佐知子、吉田篤弘、三浦しをん、吉田浩美の 4 人が「読まずに語る」！この「読まずに語る」という逆転の発想！「未読座談会」を是非私も開きたい。

## 「学校読書調査 25 年」(毎日新聞社)

中央図書館 2 階 019.3/Ma-31

毎日新聞主催の「読書世論調査」と共に毎年小学校 4 年～高校 3 年を対象に行われている「学校読書調査」。この書籍には 1954 (第 1 回)～1979 年の結果が収められている。残念ながら毎年刊行されている冊子は大学図書館には入っていないが、この本以降の結果については、1980～1993 年の結果は毎日新聞の縮刷版、1994 年以降の結果は「学校図書館」という雑誌(11 月号)で概要を見ることができる。

## 「サラリーマン漫画の戦後史」(真実一郎)

西図書館 2 階・小型 726.1/Sh-64

なんだかんだ言って日本人の職業のボリュームゾーンを占める「サラリーマン」。それらの人々の姿は今まで様々なメディアに書かれてきているが、この書籍はそんな作品たちの中でも「漫画」に焦点を当てた戦後史である。高度経済成長期～バブル崩壊以後の個人主義の台頭まで漫画を通して「サラリーマン」の生き様を知ることが出来るだろう。ちなみに小説に関しては「この経済小説がおもしろい！」(堺憲一)が参考になるだろうか(東千田図書館所蔵)。私の好みのサラリーマン漫画はこの書籍中でも紹介されている「気まぐれコンセプト」(ホイチョイプロダクションズ)。

## 「ケータイ小説的。」(速水健朗)

西図書館 2 階・開架 910.26/H-47

「妊娠小説」の項で「ケータイ小説の分析が待たれる」と書いたが、探せばあるもので、この書籍は当時の若者文化などから発生、流行の要因を探っている。また、ケータイ小説のみならず 90 年代文化論としても作者の指摘は示唆に富む。個人的には「頭文字 D」の引用に始まる地方論が興味深い。論中では浜崎あゆみが重要なキーワードだと書かれているが、この題名の最後の「。」はむしろモーニング娘。的。1990 年代後半～2000 年代前半の文化は少々昔すぎるかもしれないが読んでみると意外と面白い。

## 「ろくろ首の首はなぜ伸びるのか」と「古生物学者、妖怪を掘る」

「ろくろ首の首はなぜ伸びるのか」(武村政春) 西図書館 2 階・小型 460.4/Ta-63

「古生物学者、妖怪を掘る」(萩野慎諧) 西図書館 2 階・小型 388.1/O-25

どちらも妖怪や未確認生物を生物学観点から見直す内容の新書だがその発想は正反対。「ろくろ首の首はなぜ伸びるのか」の方は、妖怪を妖怪のまま生体構造を検討していて「鼻行類」のような内容。「古生物学者、妖怪を掘る」の方は「妖怪は実は～だった」という内容。やはり「未確認」だからこそ様々な解釈が出来て想像の余地が広いのだろうということが実感できる 2 冊。

## 「動物のお医者さん」(佐々木倫子)

中央図書館 2階・小型 726.1/Sa-75/\*\*

大学図書館には珍しい漫画作品。題名は"お医者さん"だが、内容は"お医者さん"になるまでの獣医学部で巻き起こるコメディ。少女漫画だが恋愛要素はほとんどないため誰でも読みやすく、時代の変化にも耐えることが出来る稀有な作品だろう。また少し古いが理系(生物・化学系)の研究事情の一端にもふれることが出来る。 なにより動物たちがかわいい！試しに読んでも後悔しないだろう。カシオミニを賭けてもいい！(もってないけど)



Lv.2 ★★

所々とがったところがある作品。

### 「冬の夜ひとりの旅人が」(イタロ・カルヴィーノ)

西図書館 2階・開架 973/C-13

「あなたはイタロ・カルヴィーノの新しい小説『冬の夜ひとりの旅人が』を読み始めようとしている。」で始まる2人称の小説。つまり主人公は「あなた＝読者」のメタフィクション。さあ、あなたも本を巡る旅に出よう！

### 「女旅日記事典」(柴桂子)

中央図書館 1階・参考図書 367.21/Sh-15

主に江戸時代の女性を書いた旅日記の内容を分析して要素別に解説した書籍。構成はあんまり事典っぽくはないが何故か辞典コーナーに置いてあった(＝借りることができない)。内容に興味を惹かれるだけにちょっと残念。

### 「ハンサムウーマン」

中央図書館 2階 913.68/A-33

内容を見るに実質的に「フェミニズム」がテーマの国内女性作家のアンソロジー。ジャンルは恋愛小説、SFなど色々ある。2019年にそのものズバリの「ヒョンナムオッパへ 韓国フェミニズム小説集」が出版されている(研究室所蔵)。

### 「人種改良研究所」(竹井敏)

西図書館 2階・開架 913.6/Ta-62

内容は「iPS細胞＋イーガン」という感じの生化学SFだが、そう言い切るには科学哲学の話が多く(多分こちらが書きたかったのだと思うが)少々中途半端な作品になっている。本に「著者謹呈」印が押してあり、出版社も講談社出版サービスセンターなので自費出版でほぼ確定だろう。著者についても調べてみたが全く情報が見つからなかった。情報求む！

### 「当て字・当て読み漢字表現辞典」(笹原宏之)

中央図書館 1階・参考図書 811.2/Sa-72

題名の通り、当て字・当て読みなどの特殊な読み方を集めた辞典。参照元は非常に幅広く、古典から小説、漫画、歌の歌詞、果てはインターネットまで多種多彩な用例が集められており、見出し約一万語、表記例は二万数千例載っている。これだけ集めたのは驚異的。最後に載っている概説も興味深く、読めない当て字を調べる以外にもただ眺めるだけでも面白い一冊。

## 「なんとなく、クリスタル」(田中康夫)

中央図書館 2階 913.6/Ta-84

割と有名な作品だが、見開きの右に本文、左に注釈という異常に注釈が多い小説。しかもその注釈が作中に出てくるブランドなどの解説で、作品の文学的価値に余り関係してないのがまた面白い。80年代のケーハクな空気を感じたい方は是非。

## 「少女小説事典」

中央図書館 2階 910.26/Sh-96

吉屋信子の時代～最近のライトノベルまで、代表的な少女小説の作者、作品、雑誌などを解説した内容。男性読者の方にとっては間口の狭いジャンルかもしれないが、読んでみると面白い作品も多くあるので興味があるなら恐れずに手にとって見て欲しい。

## 「ab さんご」(黒田夏子)

中央図書館 2階 913.6/Ku-72

徹底的に固有名詞が排除され熟語がひらがなに開かれている、多分芥川賞受賞作史上最も読みにくい小説。受賞作は横書き、一緒に載っている過去の作品は縦書きなので、後書きに相当する部分が本の中央部にあり「中書き」になっている所も少しユニーク。

## 「アニメノベライズの世界」

中央図書館 2階 910.26/Sa-29

意外と見かけることが少ない、アニメのノベライズのガイド。ただ、少々取り上げられているアニメが古い(1970～1990年代)ので必然的に載っている本も絶版で珍しいものばかりで中々見つからない。モノによってはプレミア価格になっているので、とりあえずこまめにBOOKOFFに通って探してみよう。

## 「日本のミステリー小説登場人物索引」

中央図書館 1階・参考図書 910.26/N-71

その名の通りの本。ネタバレには配慮されている(というかそこまで書く余裕がない)が一応注意。ちなみに私がこの本で調べたところによると、最も多く登場している人物(キャラクター)は「十津川警部シリーズ」(西村京太郎)の「十津川省三」(延べ388冊)。「単行本篇 1991～2000」「単行本篇 1991～2000」「単行本篇 2001～2011」「アンソロジー篇 1991～2000」「アンソロジー篇 2001-2011」がある。

## 「企業不祥事典」「企業不祥事典 II」

中央図書館 1 階・参考図書 335.21/N-71/\*

内容は書名の通り。再発防止のためにもこんな書籍は重要だろう。この手の事件は大きく報道されるため、少々不謹慎だがどこまで覚えているか見てみるのも興味深い。ちなみに私がリアルタイムで覚えている最古の事件は「雪印集団食中毒事件」(2000 年)。

## 「旧約聖書のゲーム理論」(スティーブン・J・ブラムス)

中央図書館書庫 193.2/B-71

「神の意図」をゲーム理論で「合理的」に解釈しよう、というまさに「神をも恐れぬ」(?) 内容。ゲーム理論の方については、論中で適宜説明があり数式もあまり出てこないの、あまり心配しなくても大丈夫。科学者と宗教の関係についても中々考えさせられる。

## 「日本原発小説集」

中央図書館 2 階 913.68/N-71

原発がテーマになっている短篇をジャンル・思想を超えて集めたアンソロジー。解説の川村湊は反原発の思想がはっきり出ているが、出版が 2011 年 10 月なので東日本大震災による原発事故を受けて大急ぎで企画されたものだろうか。短篇集なので欲を言えば長篇ガイドも欲しかった。

## 「朝日書評大成」

中央図書館 1 階・参考図書 019.9/A-82

朝日新聞に載った書評が計約 7000 冊分まとめられており、文系・理系問わず社会問題、政治、歴史、サイエンス、アート、音楽、自己啓発、小説、その他なんでもある。自分の好きな本の書評を探して共感、反論するもよし、選ばれて悦に入るもよし、適当に開いて新たな本に出合うもよし。

## 「霊柩車の誕生」(井上章一)

西図書館書庫 385.6/I-57

気付いたらすっかり見なくなっていたあの派手な霊柩車の成立事情に迫る評論。どうやら発祥は大阪らしい。幼い頃は親には「見てしまったら親指を隠せ」と言われたものだが皆さんはどうだっただろうか? 収蔵されているものは単行本だが、未所蔵の文庫版では衰退した理由にも触れられている。

## 「おじさんはなぜ時代小説が好きか」(関川夏央)

中央図書館 2階 910.26/Se-31

題名は「おじさんはなぜ時代小説が好きか」ではあるが、実態は時代小説が流行った時の若者が「おじさん」になったのだと書かれている。ということはつまり…？もうわかるだろう。我々が「おじさん」になった時読まれているものは…。時代小説好き以外にも昭和の学生運動に興味がある方も是非。

## 「女子大生ヤバイ語辞典」

中央図書館 2階 814.9/O-97

2014年発行。当時の女子大生が使用していた言葉を集めた辞典。この手のモノはあっという間に古くなるが、この書籍もその例に漏れずもう聞かなくなったものも結構ある。2ch(現5ch)発祥らしき言葉が意外に多く入っているが、それらがどのようにして伝播したのかが気になる。twitterから？彼氏経由？と思ったが掲載されている座談会で3人の内の1人が掲示板を見てると発言しているので、当時見ていた人も結構いたのかも？ 広大生特有の言葉については教育学部の学生たちが調査した「広島大学キャンパスことば辞典」がWeb上にあるので探してみてください。こちらは2003年の調査なのでもっと古くなってはいるが…。

## 「夢みる昭和語」

中央図書館 2階 814.7/J-76

おなじ若い女性が使っていた言葉を集めた辞典でも、こちらは上の辞典より約50年前の昭和30～40年代に少女たちの間で使われていた言葉を集めている。多分作成意図は介護やデイサービスでのレクリエーションで使うことを想定していると思われるが、そうすると上の辞典も(残っていれば)50年後にそんな意図で使われる？と思ったり思わなかったり？福祉系の団体がいかにも企画しそうだが「女性建築技術者の会」が作成したところがユニークといえはユニーク。

## 「お客さまはぬいぐるみ 夢を届けるウナギトラベル物語」(東園絵,齊藤真紀子)

中央図書館書庫 689.6/A-99

ぬいぐるみ専門の旅行代理店ウナギトラベルの話。もしかしたら家族同然の付き合いをしている方もいるかもしれないぬいぐるみ。自分は事情があって旅行にはいけないけど、ぬいぐるみなら…、旅の途中で写真も撮れば素敵な思い出になるかも…という思いで始まったらしいこのウナギトラベル。一緒に寝ていたぬいぐるみが楽しそうに旅する様子を見てひとりでおつかいにいけるようになった男の子など、感動的なエピソードが載っている。

## 「YS-11 が飛んだ空 全 182 機それぞれの生涯」(青木勝)

西図書館 3 階・開架 538.63/A-53

戦後初の国産旅客機である YS-11、その全機の行方を追った執念の書。YS-11 の製造の経緯は「プロジェクト X」などで知ることが出来るが、その後の足取りは意外と知られていないのではないだろうか？個人的には、製造された機体が全て国内で供用されていたわけではなく海外の航空会社にも売却されていたことが意外。

## 「 $\pi$ の公式をデザインする」(猪口和則)

中央図書館 2 階 414.12/I-55

数学の公式は高校時代に散々覚えさせられてもう見るのもいや！という方も多いかもしれない。しかし、公式は本来「覚えるもの」ではなく「作るもの」。改良したり、新しいものを見つけたりと「デザイン」することが出来る、というかそれが醍醐味だろう。この書籍は円周率の  $\arctan$  系の公式を中心に様々な公式が載っており、例えば公式中に好みの数字(例えば誕生日の日付など)を出す方法なども紹介されている。同系統の書籍には黄金比を巡る「正五角形の 対角線の長さ／一辺の長さ＝黄金比」を示す 172 の証明」もある(中央図書館所蔵)。

## 「美しい星」と「地球星人」

「美しい星」(三島由紀夫) 西図書館 2 階・小型 913.6/Mi-53

「地球星人」(村田沙耶香) 西図書館 2 階・開架 913.6/Mu-59

三島由紀夫と村田沙耶香という二人の日本文学史上重要な純文学作家。この二人の著作の中には、大衆のイメージからは外れた特異なものがある。それが「美しい星」(三島由紀夫)と「地球星人」(村田沙耶香)。しかも両作品のあらすじを見た時その類似性に驚いた。周囲との違和感からの「異星人」であることの目覚め、他の「異星人」との出会い、その意識の啓蒙と挫折、傍から見れば自滅に見える当人たちにとっての絶頂という結末。そしてどちらも SF 的発想(というか要素)を用いながら「SF になりきっていない」所が SF 者からすれば惜しくもあり、面白くもあり。他にも初出誌が「新潮」、執筆時の年齢が 40 歳弱なども共通する。…と書いたが、別に村田沙耶香が三島由紀夫の作品から盗作したと糾弾するつもりはない。むしろ意図としてはその逆で、言いたいことはこれだけ。「共通点を探しながら読むのって面白い！」。

Lv.3    ★★

おすすめする時に人を選ぶ作品。

### 「議事堂の石」(工藤晃,牛来正夫,大森昌衛,中井均)

中央図書館 2階 526.31/Ku-17

日本の石材史がこれを読めばわかる。著者の思想がみえかくれはするが、日本の石材産地や議事堂の建築過程が詳細にわかる興味深い内容。あと序文で突然議事堂愛に目覚めるところも必読。

### 「温泉文学辞典」(浦西和彦)

中央図書館 1階・参考図書 910.26/U-84

日本は環太平洋造山帯に属し「火山と地震の国」と言われるだけあって温泉が数多く存在するが、それら各地の温泉が出てくる文学作品を作家別にまとめた事典。温泉旅行のお供の本を選ぶ時の参考にしよう。

### 「電卓に強くなる」(気賀康夫)

西図書館書庫 418.6/Ki-16

比較的簡単な近似公式を用いて、三角関数、対数、指数などの数学計算や、それ以外にも物理、金融など様々な計算を普通の電卓でやっつけてしまおうという内容。理学系の方もこれさえ読めば関数電卓を忘れてしまっても大丈夫。

### 「ダイバーシティ 生きる力を学ぶ物語」(山口一男)

中央図書館書庫 913.6/Y-24

前半は社会科学的ファンタジー。論理学や経済学(ゲーム理論)、カントの道徳哲学などの社会科学全般の基礎となる事柄を紹介する形で書かれている。後半の教育劇は日米の規範文化の差異について学生たちのグループワーク形式で書かれている。前半のファンタジーは理系読者にもおすすめ。教育目的で書かれたフィクションは珍しいのでその意味でもおすすめ。

### 「日常に侵入する自己啓発」(牧野智和)

西図書館 2階・開架 361.5/Ma-35

個人的には「自己啓発書ちょっと多すぎじゃない?」と書店に行くたび常々思っているが、その自己啓発書についての研究本。最初は自己啓発書版「トンデモ本の世界」的な内容かと思って読んだが、解釈は読者自身の判断に委ねられているようである。難しい内容ではあるが引用も多くあり興味深く読めるだろう。ちなみに私にとっての「自己啓発書」は「マーフィーの法則」。



## 「人間にとってスイカとは何か」(池谷和信)

東千田図書館 382.48/I-35

純粋にタイトルの面白さだけを見て選考する日本タイトルだけ大賞の第7回を受賞した作品。アフリカ南部の砂漠に住む先住民と、そこに生えている野生のスイカとの関りを解き明かす真面目で面白い内容だった。個人的には黄色いスイカの方が好き。

## 「古典 BL 小説集」

東千田図書館小型 908.3/Ko-93

「BL」というジャンルの成立以前の「女性作家が書いた男性同士の関係性が含まれる物語」を集めたアンソロジー。BLといってもそんなに濃い内容でもなく普通に読める。洋邦取り混ぜてある所はユニークだが抄訳の作品があるのが少し惜しい感じ。

## 「メ切本」「メ切本2」

西図書館2階・開架 914.68/Sa-99/\*

エッセイだけでなく日記、漫画、それに論文まで「メ切」というテーマで書かれたものだけでまとめられている。何人か余裕が見える者もいるが、やはり大部分はメ切によって人間性が現れる感じで、それぞれの作家のスタンスが垣間見えて興味深い。メ切に遅れそうなときは、これを読んでメ切を過ぎた言い訳にしよう！

## 「独白するユニバーサル横メルカトル」(平山夢明)

中央図書館2階・小型 913.6/H-69

シリアルキラーに使われている地図が顛末を語る表題作はぎりぎり面白いが、他の作品にはかなり人を選ぶものもある印象。グロ耐性があまりない方は読むなら慎重に検討して準備もした方がよい。個人的には、映画化もされたいらしい「無垢の祈り」と最後の「怪物のような顔の女と溶けた時計のような頭の男」がヤバい印象。

## 「文学賞メッタ斬り！」(大森望,豊崎由美)

中央図書館自動書庫 910.26/O-63

「直木賞」と「芥川賞」の違いさえもよくわかってなかった中学校の頃の私は論外だとしても、世の中に数ある文学賞、誰にも一つや二つは知らないものがあるのではないかと思われるが、それらの位置づけと傾向(+代表作)がよくわかる書籍である。巻頭の「よくわかる文学賞MAP」は必見。難点は今読むと情報が少し古いことか。

## 「ビートルズ作品英和辞典(増補版)」(秋山直樹)

中央図書館 2階 834/A-38

ビートルズの作品の読解を目的として、ビートルズの作品に現れる単語や表現のみを収録した英和辞典。いくら一般的な単語(例えば「milk」「roof」など)でもビートルズの作品に現れないものは載っていない。そのストイックさには好感が持てる。

## 「レプリカたちの夜」(一條次郎)

西図書館 2階・小型 913.6/I-13

不審なシロクマを見つけた工場の従業員がその正体を探るという内容の、一応新潮ミステリー大賞というミステリーの新人賞を受賞した作品だが、ミステリーともホラーともファンタジーとも SF ともつかない何とも分類不能な作品。ちょっと変わった内容の本が読みたい方は是非。

## 「変体少女文字の研究」

※「日本人の変容((同時代ノンフィクション選集)」に収録

中央図書館 2階 916/Y-53/11

1970年代後半～1980年代に流行ったマンガ字、丸文字とも呼ばれている「変体少女文字」についての研究がまとめられた評論。もしかしたら親世代の方が書いているのを見たことがあるかもしれない。当たり前だが世の中のどんなものも「研究」されているんだなあ実感し、個人的には特別な思い入れがある。私は80年代の文化が好きなので面白く読んだが、別にこの評論を読む必要はなく、貴方の興味のある分野の評論などを積極的に読んでみて欲しい。きっと新たな発見があるはずだ。

## 「日本チョコレート工業史」

中央図書館書庫 588/N

明治～昭和32年(1957年)までの日本のチョコレートの歴史が追える内容。沿革以外にも、日本チョコレート協会の規約、各種統計、カカオの植生、栄養素や成分の分析結果など内容は多岐にわたる。戦時下(昭和16年)に研究開発された代用チョコレートのレシピが載っているので腕に自信がある方は作ってみてはどうだろうか。ちなみに材料は、チューリップ球根 or 百合根、決明子(けつめいし) or オクラ豆、脱脂大豆粉 or 脱脂落花生粉、それにラミオールと呼ばれる油脂、で総括としては「代用チョコレートノ使命ヲ制スルモノハ油脂ニアリ」とのこと。

## 「図書館が危ない！ 地震災害編」(神谷優)

中央図書館 2階・大型 012.29/Ka-39

「危ない」といっても利用者の減少で閉鎖の危機が！とかではなく、もっと直接的な図書館における地震対策について実際の事例や地震のメカニズムを交えながら解説した書籍。図書館ほどではないにしても自宅に本棚や CD 棚がある方は多いと思うので読んでみるのも良いと思う。特に背丈を越える棚が 2 つ以上あるという方は必読。図書の汚損、盗難など法的な問題を扱った「運営編」ももちろんある(中央図書館 2F)。

## 「古い大学講義ノート」

中央図書館書庫

戦前の昭和 16 年に大阪帝国大学工学部を卒業された方が在学中にとっていた講義ノートをそのままスキャンして印刷したもの。監修の言葉によると「レベルが高かった当時の資料を見て、どうしたらいいのか考えてもらいたい」とある。たしかに昔に比べればレベルが落ちているなど感じてはいるが「昔はレベルが高かった、それに比べて今は…」という意図で昔の講義ノート(しかも学生側)をそのまま見せられて学習意欲が沸くかと言われると正直疑問が残る。しかし、他人の日記を見る的な意味で、戦前にどんな内容を学んでいたかということが生で見ることができるのは非常に興味深い。電磁気学、熱力学、関数解析、応用数学や発電、鉄道など理学、工学分野のノートがジャンル別に全 10 冊にまとめられている。当然ながら手書きなので少々読みづらいが気になる方はどうぞ。

## 「小説 アジア NIEs・アセアン投資ガイド」(相沢光江)

中央図書館書庫 913.6/A-26

投資ガイドの類は数多くあれど、全篇が小説で構成されたものは流石に珍しいのではないだろうか？1990 年出版なのではっきり言って情報は古い(まだ EU ではなく EC だったり)が、当時の情勢を反映した経済小説としては読めるだろう。

## 「おもちゃドクター入門」

中央図書館書庫 759/Ma-85

自分でおもちゃや文房具などを直した事はあるだろうか？もし、自分で直すことができればその分長く使え、修理の間にメーカーに待たされることもない。この本は、そんな「自分で直す」ための入門書。ちなみに修理の方法は、技術家庭科でテーブルタップやラジオを作った経験があると思うが本質的にはそれと一緒に。壊れたり動かなくなったものでも意外にやってみれば直るもの。恐れずに挑戦してみよう(ただし自己責任で)。

## 「鼻行類」「平行植物」「アフター・マン」

「鼻行類」(ハラルト・シュテュンプケ) 中央図書館書庫 480.4/St-9

「平行植物」(レオ・レオーニ) 西図書館書庫 757/L-66

「アフター・マン」(ドゥーガル・ディクソン) 中央図書館書庫 480.4/D-79

いわゆる「生物系三大奇書」と言われる作品たち。「鼻行類」は、主に"鼻を使って移動する"ような哺乳類についての架空の論文。「平行植物」は、時空のあわいに棲み、われらの知覚を退ける植物群についての解説書。「アフター・マン」は、未来の生物についての図鑑。どれも科学的知識と空想が高度に融合されており素晴らしい。

## 「p と q には気を付けて」(高橋文樹) ※「小説すばる」2018年10月号に掲載

西図書館書庫

一言でいうと数学演習問題メタフィクション。テストのたびに点Pと遅れて出た点Qに悩まされた方は是非。楽勝だった方も是非。「小説すばる」は割と面白い作品が載っている印象なので積極的にチェックしよう！雑誌は廃棄の可能性があるので気になるなら早めに読みに行ってみよう！

Lv.4 ★★★★★

敢えて読もうとしないと中々手にとれない作品。

### 「離散」(サイド・アフメド・モハメッド)

中央図書館書庫 990/Mo-17

このシンプルな題名の小説は、何とスワヒリ語で書かれたものの日本語訳である。ちなみにスワヒリ語は主にアフリカ東部沿岸で使われる言葉で、この作品の舞台もタンザニア。内容は普通の家族小説なので、あまり身構える必要はない。

### 「日本幻想作家事典」

中央図書館 1 階・参考図書 910.33/H-55

日本国内における古典～2006 年までの幻想的な作品をちょっとでも書いている作家がほとんど掲載されている本当に驚異的な事典。おまけに漫画家編と映像篇も付いている。知らない作家に出会ったらこの事典で調べてみるのはもちろんのこと、知っている作家についても調べてみると新たな発見があるだろう。

### 「サプリメント戦争」(三浦俊彦)

中央図書館書庫 913.6/Mi-67

ストーリーの構成自体は森見登美彦作品みたいで若干のナンセンスさもあり普通に面白いが、作中に出てくるサプリメントの量が尋常じゃないほど多い！ 1 ページ丸ごと名前や成分、効能で埋まっていることもあり、全部省いたらページ数は 1/3 位にはなるはず。冒頭 100 ページに耐えられるかが通読の分かれ目か。

### 「残像に口紅を」(筒井康隆)

西図書館 2 階・小型 913.6/Ts-93

小説をそのまま読むと主人公が「小説の主人公」であることを自覚して行動するメタフィクションだが、注目すべき所は他にあり、章ごとに音(おん、ひらがな)が一つずつ消えていく仕掛けになっている。当然、音が一つ消えるごとに描写できるものが減っていくことになるが、そんな制約を入れて書かれたこの小説は、まさに「実験小説」だろう。

### 「精霊の箱」(川添愛)

西図書館 3 階・開架 007.1/Ka-98/上,下

前作「白と黒のとびら」の続きの、世界の構造にオートマトンを置いたファンタジー。個人的には数学小説の双峰の一つだと思う(もう一つは「数学ガール」)。ファンタジーでありながらチューリングマシン、コンピュータの物理的構造や RSA 暗号にまで言及される驚愕の内容。著者の作品の中では最も難しいが情報分野に興味があるなら一読の価値あり。

## 「異世界語入門 転生したけど日本語が通じなかった」(Fafs F.Sashimi)

西図書館 2階・開架 913.6/F-11

異世界転生ファンタジーの皮をかぶった異世界語習得指南書兼言語学入門書。文字や文法が一からデザインされており、作者には本当に頭が下がる。私は通読はしたがリパライン語が読めた(理解できた)わけではないので本当の意味で読めたとは言えないのが残念。外国語は得意でなくても言語学に興味があれば大丈夫、興味があるなら恐れずに読んでみよう。

## 「実験する小説たち 物語るとは別の仕方」(木原善彦)

西図書館 2階・開架 902.3/Ki-17

色々読んである程度読書経験値がたまると、なんだか普通の小説では物足りなくなる時があるもので、そんな時に読みたい作品が載っているのが本書。文学上の「実験」をしている小説ばかりを集めたブックガイドである。ただ、珍しい作品ばかりなので少々探すのが大変といえば大変。ここで取り上げた中にも「残像に口紅を」「虚数」「完全な真空」「ab さんご」「冬の夜ひとりの旅人が…」など、他にも円城塔の作品も紹介されている。

## 「飛ぶ孔雀」(山尾悠子)

西図書館 2階・開架 913.6/Y-41

第39回日本SF大賞を受賞した稀代の幻想文学。読みにくい。いや、読むだけならこれも読めるけど、とにかく理解しにくい作品。イメージを無理やり言語化すると、まず森見登美彦のホラー作品をイメージして、5枚ぐらい紗をかけてセピア色にし、寂れた感じがする舞台を描いた感じだろうか。と、書いてみたが、ストーリーはあってないようなものでそこはあまり重要ではなく、描写に身を任せるように読むのが良いと思う。

## 「文字渦」(円城塔)

西図書館 2階・開架 913.6/E-62

こちらも第39回日本SF大賞の受賞作。円城塔はSF畑からデビューしており数理的背景がしっかり存在しながら、ステレオタイプなSFの枠に収まらない思弁的とも言えるような作品を描いている現代日本では非常に稀有な作家である。この作品ではUnicodeのCJK統合漢字領域の変遷を領土戦争に見立てたり字形で横溝正史のパロディをやったりと良い意味で"やりたい放題"。「文学の力」というより「文字の力」を"読む"ことが出来るだろう。





Lv.5 ★★★★★

あらゆる点でユニークな作品。

### 「雨月荘殺人事件」(和久峻三)

中央図書館書庫 913.6/W-35

弁護士でもあるミステリー作家の和久峻三が書いた公判調書ファイル・ミステリー。初見"ではだれでも絶対目を疑うと思う。私はどう読めばいいかわからなかった。法学部の講義の教材にはぴったりかも。

### 「不思議の国のグプタ」(ヒロ前田,清涼院流水)

西図書館 2階・開架 913.6/Ma-26

TOEIC あるあるで構成された小説。ジャンルとしてはなんだろう、SF ファンタジーメタフィクション? 何気に TOEIC 以外のトリビアも面白い。これを読めば TOEIC の点数が上がるかもしれないし上がらないかもしれない。

### 「孢子文学名作選」

西図書館 2階・開架 918.6/H-92

「孢子類」、つまりカビ、コケ、シダ、キノコなどをテーマとして書かれている日本の文学作品ばかりを集めたアンソロジー。小説だけでなく詩や俳句なども収められている。装丁がかなり凝っているので一部読みにくいが、孢子の世界に存分に浸ることが出来るだろう。

### 「細菌ハックの冒険」(マーク・トウェイン)

中央図書館 2階 938/Tw/9

児童文学の古典である「トム・ソーヤーの冒険」、その続編の「ハックルベリー・フィンの冒険」を書いたマーク・トウェインによる更なる続編。内容はハックが魔術師によってコレラ菌に姿を変えられ、浮浪者の中で生活するという内容。ちなみにトウェインは、現在のライトノベルブームに先駆けることなんと約 130 年前に書かれた世界転移俺 TUEEE 系技術内政チートファンタジーの「アーサー王宮廷のコネチカット・ヤンキー」という作品も存在する(研究室所蔵)。まあ、こちらの結末は当時の作品っぽい感じはするが。

### 「表現の冒険 戦後短篇小説再発見」

中央図書館 2階・小型 913.68/Ko-19/10

「戦後短篇小説再発見」シリーズ全 10 巻の最後を飾る、新しい表現に挑戦した作品ばかりを集めたアンソロジー。中でも高橋源一郎の「連続テレビ小説ドラえもん」が問題作。これを「表現の限界に挑戦した文学」と捉えるか、「下世話なパロディ」と捉えるかはあなた次第。

### 「水晶内制度」(笹野頼子)

西図書館 2 階・開架 913.6/Sh-96

日本神話とフェミニズムに裏打ちされた過激な世界観の近未来ディストピア。思想がかなり過激なため人を選ぶが、内容の是非は置いておいてこんな本が存在するというただ一点のために好奇心から一読しても損はないほどの作品だ。姉妹篇らしき「ひょうすべの国」も研究室に所蔵。

### 「念力家族」(笹公人)

西図書館 2 階・小型 911.16/Sa-71

超能力が使える家族の短歌集。「魔除け少女」の章の執拗な「すさまじき腋臭の少女あらわれて～」には笑える。TV ドラマにもなっているが、それもとぼけた味わいで笑えた。

### 「完全な真空」「虚数」(スタニスワフ・レム)

「完全な真空」中央図書館 2 階 989.84/L-54

「虚数」中央図書館 2 階 989.83/L-54

「完全な真空」は架空の本の書評集、「虚数」の方はバクテリアを利用した未来予知の研究書や人間の手に寄らない新しい文学「ビット文学」の研究書などの序文、未来の「完全な」百科事典のパンフレット、人智を超えたコンピュータによる人間への講義録などが入っている。まさに「人智を超える作品」。どんなに難しくても、とにかく奇妙なものが読みたい方に。

### 「探偵助手」(小林泰三) ※「数学セミナー」2009 年 4 月号に掲載

中央図書館 3 階

QR-JAM(QR コードの発展形みたいなもの)の理論の連載の最後に、その応用例として書かれたミステリ。スマホを持って読んでみよう。

### 「Thieves In The Temple」(阿部和重) ※「美術手帖」2012 年 08 月号に掲載

中央図書館 3 階

読めるものなら読んでみろ！以上！

## "レア"な本の探し方

基本はやはり"実際に見て探す"ことです。自分の興味のある分野以外の情報は中々受動的には入って来ません。実際、今回紹介した書籍は(他の図書館、書店も含めて)実際に書棚を見ている時に見つけたものが半分強(81冊中41冊)を占めます。自習の合間に休憩として書棚を見て回ってみる、こまめに図書館や書店に行ってみる、必要な本の周りの棚も見てみる、などすると見つけやすいと思います。

他には、ガイドブックや書評をこまめにチェックするのも良いでしょう。自分の興味のある分野について、普段読まないような少し珍しいものを紹介してくれる、自分にとって都合の良い雑誌や評者を見つけておくと良いと思います。本全般に関する雑誌は「ダ・ヴィンチ」や「本の雑誌」がありますが、それらやその他ジャンル別の文芸雑誌を読んだり、週刊誌や一般の雑誌、新聞にも大抵書評が載っています。「～がすごい！」系の年間ランキングムックなどもおすすめです。

また、文学賞の受賞作も要チェックです。芥川賞や直木賞などの受賞作は有名ですが、世の中にはたくさん文学賞があって、ユニークな視点で選んでいる賞も結構あります。例えば"広く性差、性別役割というテーマを探究する作品"を選ぶ「センス・オブ・ジェンダー賞」、"国内での出版書籍のタイトルのみのコピー、美しさ、面白さ"で選ぶ「日本タイトルだけ大賞」や、新人賞では「日本ファンタジーノベル大賞」や「メフィスト賞」がおすすめです。

あと変な本を読んでいると気になるのは「外れを引かないか？」と言う事でしょうか。この辺りはネタバレの危険性とトレードオフになりますが、基本的に私はあらすじや解説をとりあえず見てみます。また、評価軸として自身の軸と他人(が評価するであろう要素)の軸の2つを持っておけば、「自分的にはそれほどでもないが、誰々なら好きかもしれない」と読むことが出来ます。

是非皆さんも珍しい本を探してみましよう。